学校だより

つ ち の こ

令和８年８月９日
長崎市立土井首小学校
校　長　　小柳　暁

おりこういっぱい　土の子保護者及び地域の皆様　いつもお世話になっております。

まずは、先日の令和８年熊本地震では、私たちの住む長崎市も震度４という、めったにない揺れでした。被災地では今日も復旧に向けて作業が続いています。皆さんの中にも、親戚や知り合いが…という方がいるのではないでしょうか。被災地の一日も早い復興を願わずにはいられません。その気持ちを心において、今をしっかりとやりましょう。

本日の平和集会で、子どもたちにこんな話をしました。ご一読ください。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

ところで、８１年前の１１時２分、私たちの住む土井首ではどのようなことがあっていたのでしょうか。校長室の本棚には、その時の記録が残っていました。

鹿ノ尾川をはさんで、磯道地区と土井首地区に分かれています。

まず磯道地区では、長崎県立水産学校（現在の長崎県立長崎鶴洋高校）の窓ガラス等が破損したとの記録が残っています。

授業中、爆風に合った当時の高校３年生は、「原爆の時も授業の最中だったが、いきなり教室の窓ガラスが音を立てて飛び散り、黒板が倒れたので、何が何だかわからないまま机の下にかがみこみ、あたりがシーンとなったとき、私たちはいっせいに教室を飛び出し、はだしのまま裏山の防空壕へ走りこんだ。しばらくたって防空壕を出てみると、窓ガラスはほとんど割れていた。」と証言しています。

また、当時は土井首村網代にあった福井医院：現在の長崎記念病院の福井静江さんは「ただ、原爆によって天窓のガラスが一枚残らず壊れて、畳や建具につきささっていたこと、家の中の立て付けが悪くなったことは覚えている。また、この時の爆風ではねとばされた人もいた。」と語っています。

土井首地区の家屋も大体、これに似たような状況だったでしょう。土井首小学校のすぐ近くにも、原爆の強い爆風は届いていたのです。

だから、他人ごとではないのです。それから 81 年たち、原爆の威力は相当強くなっています。次は爆風だけでは済まないでしょう。

こんなことがあっては、なりたい自分になれません。

だから、これからを生きる私たちが、「平和な世の中で生活したい」「戦争はいけない」「二度と原子爆弾を使ってはいけない」という思いをもち、一日一日とそれを形にする努力をしましょう。「平和な世の中を生きる自分」が「なりたい自分」です。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

「平和とは、誰かから与えられるものでなく、世界中の人々で創り上げるもの」と、８月６日広島原爆記念式典で、代表の子どもが言っていました。正にそうだと思います。

今日は「平和な世の中を生きる」自分の「やりたいこと」を考える一日にしたいものです。

学校教育目標 **「なりたい自分になる！やりたいことをやる！」**

150 周年ｽﾛｰｶﾞﾝ **「151 年目もチャレンジして、感謝とあいさついっぱいの学校にしよう」**